スカウトみやぎ

2019／12. 1
No.51

そなえよつねに
ボーイスカウト

宮城県連盟創立７０周年記念県キャンポリー総括

運営本部長　佐藤友秀

宮城県連盟創立７０周年を記念した県キャンポリーが、令和元年８月９日から１２日まで３泊４日で宮城県立松島自然の家を会場に開催された。

本大会は、県内スカウティングの友情結束と向上発展を目的に、また２年後の第６回北海道・東北キャンポリーのプレ大会を想定して実施された。

今回の大会では、一般参加者を公募した結果、近隣の８人の少年少女の参加があり、雄大な自然の中でスカウトと一緒に、キャンプや様々な野外活動をした。

また、埼玉県川越１０団のスカウトの参加もあり、一般応募の参加者も含め１６４名のスカウトと指導者が、松島自然の家とその周辺での野外活動とプログラムを体験した。また、県内のビーバー、カブスカウトとその指導者、保護者の方々２８８名が来場し、先輩スカウトの活動の様子を見学したり、用意されたプログラムに参加し活動した。

大会期間中、概ね晴天に恵まれたが、あいにくの台風接近により予定されていた海でのプログラムが、実施できなかったことが残念であった。

しかし、スカウトたちは果敢に新しいプログラムに挑戦し、それが充実した活動となり、大会全体としてもスカウト達からは好評であり、大会目的を十分に達成することができた。

最後に、宮城県、東松島市を始め、関係各位の多くの皆様に、ご支援とご援助いただき感謝いたします。

（本大会の様子はインスタグラ　www.scout-miyagi.jp/camporee2019 で発信した。）

仙台地区合同キャンプ報告

仙台第２８団　乙訓敬仁

今年４月２７日から５月２日までの５泊６日で「仙台地区合同キャンプ」が青葉区のドミニコの家にて行われました。

参加したのは、仙台１２、２８、３５団合同隊と仙台１団です。

キャンプ初日は、朝からあいにくの雨で、開村式は室内での実施となりました。

新人の参加者３人が、少し不安な顔でのスタートとなりましたが、午後からは天気も回復し、カッパを着ながらの設営を行い、これから６日間を過ごす自分たちの「マイホーム」が出来上がりました。

キャンプ２日目は、晴天で午前中から進級課目の国旗掲揚の練習などに挑戦したり、ＶＳ隊製作の信号灯を見学をしました。

キャンプ３日目のメインは「白松がモナカ工場見学」。平成最後の見学者となり、お土産の最中を美味しく頂きました。

キャンプ４日目は、寒い雨の中で課題のハイキングに挑戦。キャンプの疲れが出るころで、途中リタイアも出てしまいましたが、ＧＢの頑張りが光りました。夜は仙台１団との交流会で親睦を深めました。

キャンプ５日目は、ラストナイトのスペシャルメニューは鶏の丸焼き！そして、キャンプファイヤーで盛り上がりました。

最終日。途中リタイヤしたスカウトも朝から参加し、好天の中で揃ってのフィナーレとなりました。特に新人スカウトには、辛いこともあった長期キャンプでしたが、その分、確実に成長したことが、実感された有意義なキャンプでした。

また、開催日にはまだ新元号が始まっておらず、「平成最後であり、かつ令和最初」という２つの時代を跨ぐという思い出に残るキャンプにもなりました。

２４ＷＳＪに参加して

仙台第１団ＶＳ隊　なまはげ班　佐藤龍馬

今回の２４ＷＳＪは、班長と議長という立場で参加することになった。２４ＷＳＪは日本で行ったものと、会場規模が段違いであるのはもちろんのことプログラムのスケールも大きかった。

ジャンボリーで私が最も楽しいと感じたことは、期間中の生活である。

朝起きて寝ぼけながら食事を作って、朝礼をしてプログラムへ行く。途中で他国のスカウトと交換したり、ショップを覗いたり、配給に行って夕食を作って夜プロを行う。

そんな何気無いキャンプでの生活がＡ分団１隊のスカウトと出来るのがとても楽しかった。

岩手で初めて会ったにもかかわらず、ジャンボリーを通してこんなにも深い関係になれるとは思っていなかった。一生大切にしたいたくさんの仲間ができてよかった。

現地にはたくさんのプログラムがあった。ビッグジップと呼ばれる超大型のジップラインを始め、クライミング、ラフティング、ウォータースポーツやマウンテンバイクなどなど、日本では経験できないようなことであった。そして、全てがアメリカンサイズだった。また、各国の料理を楽しむことができたのも魅力の一つであったと思う。

開催国アメリカをはじめ、イタリア、ドイツ、ポルトガルまで、私はポルトガルの料理を食べたことがなかったので、とても興味が湧いた。実際どの料理もとても美味しく貴重な体験ができた。

世界の人たちは、みんな肌の色や宗教や言葉とか違ってたけれど、そんな事は関係なしに仲良くできるボーイスカウト活動は素敵だなと思った。この経験を後輩へと伝え、さらに活発に活動していきたい。

仙台第１団ＶＳ隊　　個変班　新井彩子

ビーバーの頃からスカウト生活が始まり、私にとってボーイスカウトとは日常の一部、欠かせないものとなっていました。

そんな私にとって、世界スカウトジャンボリーとは憧れの大会（キャンプ）でした。この夏、ずっと憧れていた世界スカウトジャンボリーに参加できたことは、私のスカウト人生の中でとても濃い思い出となり、一生忘れられない体験となった様に感じます。

今回のキャンプの中で特に思い出に残ったこと、それは班のみんなと活動をする中で、多国籍のスカウト達と交流をしたことです。たくさんの国のスカウトとハイタッチやワッペン、ネッカチーフ等の交換を通して行われた交流は、とても新鮮であると共に、ワクワク感を与えてくれるものでした。

さらに、世界のスカウト達と交流をする中で、国ごとの文化、言い換えれば、その国の“当たり前”が見え、とても面白く、より海外に興味が出る様な体験でした。

今回、アメリカへ行き、ボーイスカウト活動の１つである、世界スカウトジャンボリーに参加するということは、留学を控えている私にとって、とても大きな挑戦でした。なぜならば、“やらなければならないこと”が沢山ある中で、“やりたいこと”を優先し、“やらなければならないこと”を後回しにしてしまったからです。

しかし、今回の約３週間で得た沢山の学び、楽しさ、何よりも第１隊の仲間をはじめとする日本、世界のスカウト達との出会いは、only oneであり、他のものとは変えられない大きなものとなりました。心から参加して良かったなと思います。

最後に、第１隊の皆さん、only oneの夏をありがとう！

個変班、優秀班最高～～！！

お父さん、お母さん、行かせてくれて本当にありがとう！！

仙台第１団スカウト体験会

仙台第１団副団委員長　和田剛和

９月２９日に仙台１団では団行事としてスカウト体験会を実施しました。今回の体験会では通常の団の案内チラシのほかに実施案内のチラシも作り、近隣の市民センター等に配布も行いました。

また、保護者の皆様にもご協力をいただきご友人、知人の皆様への声掛けも行っていただきました。

カブ隊では、青葉区中山の団ホールから会場の水の森公園までの、約４キロをハイキングで移動しました。ルートを書き込んだ地図を使って、水の森公園まで歩くというのが今回の課題でした。まだ地図を読むことに慣れていないカブスカウトたちには大変だったようで、通常より１，５倍の時間がかかりました。

会場に到着後は、ブルーシートと竹竿、ＰＰロープでテント的なものを作る作業に挑戦しました。このように活動を通していろいろな結び方に、興味を持ってもらえたらと思います。そして午後からは、みんなでクッブというゲームで遊びました。いつもながらに盛り上がりました。

ビーバー隊では段ボール遊びをしました。段ボールで迷路を作ったり、高く積み上げたりして楽しく遊びました。また、玉ネギ染も行い体験参加した子どもたちも大喜びでした。

今回の体験会には１３人が参加されましたが、体験会に参加された方からのアンケートを見ても、チラシを市民センター等に置いても反応は鈍く、やはり口コミや声掛けがとても有効でした。いかに現スカウトの保護者の皆様にスカウト運動の素晴らしさを知っていただき、それをご友人、知人に知らせていただくかが重要と感じています。

大崎市鹿島台災害ボランティア活動に参加

仙台第３７団　鷲　敏之・若盛　力・吉田　幸弘

○日時

令和元年１１月３日（日）

○ボランティア概略

大崎市災害ボランティアセンターの方1名、栗駒の方（1名）、聖ウルスラの女子高生（3名）の計8名で鹿島台の米作農家の家に行きました。

昼食（各自で持参）

○作業内容

１．米を保管していた倉庫の木パレットやベニヤ板の撤去と泥のかき出し作業。

２．金属廃棄物やワラの廃棄作業。

※災害ボランティアセンターの方が時々、休憩を促します。

○所感

作業の中には釘等があり、手や足を切る恐れがあるので、ゴム手袋の下に必ず軍手を着用し、長靴も良いのですが登山靴て対応した方が良いと感じました。１月２日の時点で災害ボランティアに参加した人数は、１９４０名で参加団体が２７団体でしたが、まだまだ人手が足りないというのが率直な感想です。

ただし、ボランティアに活動するには自分の健康管理は自分で対応しなければいけません。自分の体と相談しながら、出来る範囲で災害ボランティア活動に参加し、ボーイスカウトの奉仕の心を磨いていきます。

指導者養成委員会より活動報告

今年度上半期の活動として、６月２３日(日)第１回スカウトセミナーを開催し１５名の参加がありました。そして、６月３０日（日）ＷＢ研修所課程別研修ＣＳ部門・ＢＳ部門・ＶＳ部門の開設には７名の参加者があり、部門ごとのスカウト教育について研修を行いました。

また、１０月１１日（金）から１４日（月）に石巻市コロボックルハウスにてＷＢ研修所スカウトコース東北第５期（ＢＳ課程一括型）を開設し、北海道、岩手、秋田、福島、宮城の指導者１２名が悪天候の中、真摯に研修に取り組みました。

以降、１１月１９日（日）、２月２３日（日）のスカウトセミナーで今年度の活動は終了予定です。

予定のスカウトセミナーはすべて県連事務所で行いますが、６名以上の参加者がいればご希望の日時・場所での開設も検討させていただきますのでご相談ください。

ボーイスカウト募集中

なろう。一人前に。一人前って意外とむずかしい。
自分のことは自分でする。困難に立ち向かえる。
こまってる人の助けになる。そんな自分になるために。
そなえよつねに“ボーイスカウト”

保護者の皆様へ

ボーイスカウトとは、仲間たちと自然の中で遊びながら、いろいろなことを身につけて、より良き社会人を目指す活動です。

お問い合わせ先

◆県連ホームページタスクチームからのお知らせ

自団の活動を保護者や外部の方々にお知らせするにはホームページやフェイスブック、インスタグラムなどのＳＮＳが有効です。ただ、スカウト年代の保護者に向けてのアピールはスマホでも見られるフェイスブックやインスタグラムが特に有効です。
まだ作成していない団は広報の一環として、ぜひ作成してみてください。そして作成後はシェアして拡散しますので、県連にお知らせくださいますようにお願いいたします。
Facebook の情報もご覧頂き「いいね！」「シェア！」を拡散してください。

◇　県連ＨＰ　http://www.scout-miyagi.jp/
◇　県連 Facebook　ボーイスカウト宮城県連盟

■編集後記

◇２０１９年夏「県キャンポリー」が、盛会裡に終わりました。
大会期間中の様子をインスタで発信、その投稿数は動画を含めて１８６になりました。フォロワー数は８０で、県内外の方にご覧頂きました。
今後の大会等にもインスタを活用して、広報活動に努めたいと思います。

K・S

■表紙写真説明

◇仙台、東部地区合同ビーバーランド・県キャンポリー・名取第１団

■発行　日本ボーイスカウト宮城県連盟
■発行者　理事長　菅野五郎
■編集　宮城県連盟組織拡張広報委員会
委員長　佐竹孝喜
委　員　和田剛和　松本康男
富士原孝一　鈴木史朗
渋谷純

〒 985-0841
宮城県多賀城市鶴ヶ谷１丁目４番１号
（宮城県多賀城分庁舎内）
TEL 022-355-6265 / FAX 022-355-6267
E-meil office@miyagi.scout.jp